

OMU Students 海外留学レポート



氏名 山内 光
所属 現代システム科学域
知識情報システム学類
学年 4年
留学先 チェンマイ大学
留学期間 2023/08/20~2023/09/10

留学レポート Study Abroad Report

○全体の感想

今回私は3週間タイのチェンマイ大学に短期留学をしました。物心ついてから海外へ訪れるのは初めてで、3週間という短期間ながらその密度はもはや3か月に匹敵するほど濃密なものでした。食事や考え方、言語、風景とありとあらゆるものが日本と異なる一方で、日本と共通するものや共有することの楽しさを同時に学びました。この3週間は人生で最も楽しい3週間でしたし、この先も宝物そして教訓として強く心に残るものでした。それと同時に、英語を使った意思疎通ができたときの達成感や喜び、一方で意思疎通が難しい時のショックや力不足感も強く感じ、今後の英語に対する勉強モチベーション向上にも大きく貢献したと思います。

○留学のきっかけ

留学のきっかけは正直大したものではありません。卒業までに海外へ行きたいという漠然とした思いと、そこへ友人からこのプログラムの誘いがあったこともあり、なんとなく機会があったから参加した側面が大きかったです。日本と異なる面が多そうな国ならいいかと考えていた程度でしたが、結果的にはタイのチェンマイは、視野を広げるには抜群の留学先だったと思えます。

○食事

タイの料理は辛い食事が多いです。メニューを見れば明らかに辛そうな食事が並んでますし、有名どころであるカウソーイやガパオも日本人からするとかなり辛いかと思われます。辛いものが得意ではない私は、右の写真の「カオマンガイ」と呼ばれる料理をほぼ毎日食べていました。ソースの量によって辛さを調節できるのが大きなポイントで、ソースもそれほど激辛ではないのが良かったです。値段は50バーツ程度(230円程度)で、恐ろしいほどリーズナブルです。値段の傾向として、日本食やイタリアンなどタイ料理以外は比較的値段が高く、一方でいわゆるタイ料理は非常に安価なものが多かったです。





○授業

基本的に平日の午前中は ALT(オーストラリア人)1 名と日本人学生 10 名程度の英語の授業でした。教師によって授業内容はかなり異なっていたようですが、私たちのクラスは主にひたすら英語を話す授業でした。英語版人狼ゲームなどをはじめとしたロールプレイングゲームや、英語の映画や音楽を鑑賞してその感想を英語で言ったり、発音練習を行うといった内容です。しかしプログラム開始後 1~2 週目はコロナが猛威を振るっており、一時は出席人数が私を含めてたった 2 人の時もありました。この時

は教師を交えてひたすら 3 人でいろいろな話題を話していましたが、自分のリスニング能力やスピーキング能力の低さを痛感する時間でもありました。

○アクティビティ

午後や休日とは何かしらのアクティビティを行うことが多く、このプログラムの 1 番の魅力ともいえるでしょう。有名な観光地にも行くことができますし、ガイド付きの街案内も非常に魅力的でした。その他現地の伝統工芸や舞踊などを体験できるアクティビティもあり、どれも印象に残っています。中でも多くの学生が楽しいといていたアクティビティがゾウと触れ合う体験です。餌やりだけでなく、実際にゾウの上に乗って散歩したり、ゾウの体を洗う体験など日常ではできない体験を山ほどさせてもらいました。インストラクターの方も個性豊かでフレンドリーな方が多く、すぐに仲良くなることができました。



○バディとの思い出

アクティビティなどを通じて仲良くなった現地のタイバディとは、プライベートでもさまざまなところへ出かけました。タイの名物ナイトマーケットやアクティビティでは行っていない観光地、さらにはおしゃれなバーなどでお酒を飲むことも多々ありました。現地のことについて教えてもらったり、お互いの言語や文化を教えあったり、中には恋愛相談を受けることもありました。日本人以外の恋愛を聞くのは初めてで新鮮味もありましたが日本と共通する部分も多かった点は面白いと感じました。バディとプライベートでの交流は日本人留学生によってかなり差があり、積極的に連絡先を交換してご飯などに誘うことで現地の文化や考え方をより深く学べますし、自分の英語力の向上にもつながると強く感じました。



○教訓

一方でさまざまな教訓もありました。中でも最も皆さんに共有したい教訓は「渡航前にワクチン接種はした方が良い」ということです。恥ずかしながら現地のバディと共に猫カフェに遊びに行った際、餌と指を間違われたのか、猫にかなりの力で指を噛まれてしまったのです。その後まもなく発熱し、コロナの検査を行っても陰性であったため近くの病院で診察を受けたところ、狂犬病の疑いがあるとのことで 5 回も注射を接種する羽目になりました。タイでの感染症に対する意識がそれほど高くなく、予防接種も一切受けずに渡航したため、もしかしたらこの猫だけでなくもっと重大な治療できな



い病気をもらった可能性も否定できません。特にタイのようないわゆる発展途上国と呼ばれる国に渡航する際は必ず事前に知識を習得し対策を行うことが、自分の命を守るうえで非常に重要です。(自分に言い聞かせてます。)

○最後に

今回のチェンマイへの留学は、日本では絶対に体験することのできない3週間でした。バディだけでなく現地の店員や住民とも交流したうえでのタイ人の印象としては「とても愛嬌がある」という印象を受けました。微笑みの国というだけあって非常にフレンドリーかつ笑顔が多く、英語が通じない方もいる一方で、タイ語で挨拶やお礼をするだけでも笑顔が返ってくるため、現地の人々と話すのがとても楽しかったです。この留学はもちろん英語研修の留学ではありましたが、最低限現地の挨拶を習得することは、利便性以上に「相手の文化を知ろうとする姿勢」を示すことができるため、現地の人々と仲良くなるきっかけになりやすいのでおすすめです。逆にバディの中には日本のアニメや曲、しいては日本語を少し話せるバディもあり、そういったバディは比較的仲良くなるのが早かったように思います。お互いがお互いを知ろうとすることがバディを含め現地の人々と仲良くなる最短ルートなのだと知りました。他方、タイのような発展途上国が留学先であったこともまた良い点でした。もちろん教訓もありましたが、それ以上に日本と大きく異なる文化を体験したことで日本の良さやタイの良さを改めて認識することにもつながりました。英語や知識をブラッシュアップしたうえで、タイやはたまた別の国にもぜひ訪れてみたいです。